

平成28年度 第6回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会（第3回プラン見直しのための会議） 会議録

日 時：平成28年11月22日（火）

午後1時30分～午後3時45分

場 所：市民会館 第2会議室

出席委員：小宮山洋子・渡邊恵子・小松豊・日吉桂大・勝間田和子・小宮山なほみ・山崎喜三・平野昭弘・湯山有朋・田口公士・

中川鈴代・佐藤正博・南茂秀子・根上英志

アドバイザー：牛山教授（明治大学政治経済学部）

明治大学：三浦正士、黒石啓太

事務局：村松次長、勝又統括、鈴木主事、寺島主事

1 開 会（湯山副会長） 13:30

2 あいさつ（渡邊会長）

3 協議事項について

（1）推進プランについて（委員が事前配布資料持参）

- ・ここまでの経緯と全体像の説明（鈴木）
- ・詳細について説明（黒石）
- ・質疑応答・議論
- ・今後の流れ（鈴木）

本日の議論 → 調整会議（1月16日）・庁議（2月3日）→ パブコメ（2月）→ 3月21日協議会で報告

【意見等一覧】

箇所	内容	他の意見	対応等(明大・事務局)
はじめに	①1行目「あわせて」→「併せて」に。 ②1～3行目。長すぎるので読み取れない。 ③6行目「具体的な手法・マニュアル」は手引きなので「として」ではなく「とともに」が適当。 ④7行目「策定」→「改定」に。	①漢字の修正については、例規ではないので良いのではないかな。	
目次	①「1.」→「1」に。		
P1	なし		
P2～ 4.本市における市民協働の現状と課題	①P2「4.本市における市民協働の現状と課題」とあるが、記されているのは現状のみで、課題の記述はない。 ②P2 下から3行目「ハードルを下げる」とあるが、「ハードル」という表現だと市民協働事業が困難であると言っているようなものである。ハードルは決して高くなく、誰もが参加できると思える表現にしてほしい。 ③P2～それぞれのデータの参考資料の順番が、2→3→1になっているので、本文か参考資料のどちらかの順番を変え1→2→3とする。 ④P4 平成22年度と25年度の比較で、市民協働のために行政に求められるものとして「市職員の地域活動への参加」が大幅に減少しているが、どのような理由だととらえるか。統計なので、分析がほしい。他の項目はこれ程の大差はない。 ⑤市民満足度調査の反映は事務的に可能なのか。	①について ・プラン中に個別に出ているので「課題」は削除で。「現状と市民認識」というような表現はどうか。 ・「現状」のみでよいと思う。 ④について ・パブコメの手続き。2%は誤差。他の物の優先順位が上がったとみるのが普通 ・分析することはできないと思う。内容によっては誤解を招く恐れがある。	②より多くの人が参加できるという意味合いなので「ハードル」にこだわらない。市民活動に参加しやすいということが伝わるよう修正する。 ④「職員に期待をしていない」「現在十分参加しているので特別要望はしない」の2通り考えられる。(そもそもの質問の意図も、はっきりとわからず) ⑤厳しい。
P5～ 5.「協働」と「市民協働型まちづくり」	①P5「協働」のまちづくりが求められるわけ4行目「あげられます。」→「挙げられます」に。 ②P5 本文下から6行目「行政」は不要では。 ③P5-6「いろいろな主体」「さまざまな主体」使い分け		②カットする ③特に意味はないので、統一する。 ⑤スリム化するため

	の意味はあるのか。 ④P6 図の矢印を色分けして、公民協働、民民協働の違いを分かりやすくした方がよい。 ⑤P7 上から4行目「行政のスリム化」をすることが、公民協働の主目的なのか。であれば、P9の(3)に入れてしまえば。 ⑥P7「公民協働」にはルールが必要5・6行目に、「一方」が2回出てきて紛らわしいため、2回目の「一方的」をカット。 ⑦P7 御殿場市における「市民協働型まちづくり」2行目「呼ぶことにしました。」→「呼んでいます。」		にやっているわけではないが、市の基本方針である「御殿場型NPM」にも「新公共経営」という理念が含まれている。再度表現を検討したい。
P8 6. 「市民協働型まちづくり」の8原則	なし		
P9～ 7. 「市民協働型まちづくり」の進め方	①P9 (3) そもそも指定管理や委託は、市民協働と相容れるのか。別物ではないか。 ②P10～事例は、結果だけでなくその後の継続性や現状の取り組み等の評価を入れた方がよい。 ③P10 事例「2」が抜けている。	②について ・来年度より5年間使うプランなので、5年保障できる内容でなければならぬので評価は不要。ただし、H29.4 現在のものとして考えるのであれば評価してもよい。 ・プラン内で発展性をうたうなら、入れて良いのでは。 ・単なる具体例の紹介なので、評価でなく客観的でよい。 ・例2と3について、文末が過去形になっているので、継続的に続けていることを付け加えた方がよいのでは。	①導入にあたって市民協働の視点を踏まえるということなので、必ずしも相容れないものではない。 ②評価や将来像になってはいけない。あくまで事例なので、客観的に事業を記したこのままでよいと考える。
P13～ 8. 「市民協働型まちづくり」	①P13【内容】→【役割】に。 ②P13【内容】2行目「・」が赤くなっているので黒く。	④同意。	⑦初代推進プラン策定時(H19.3)に策定

くり」推進のための施策体系	③P13 市民向け施策【方針】4行目「取組み」が2回出ているので、表現に工夫を。 ④P13 市民向け施策（市民活動支援機能の強化）直後の【方針】と、P15 行政向け施策（協働型の行政運営に適した市役所の組織体制づくり）直後の【方針】は不要ではないか。 ⑤P13、15「市民向け施策」「行政向け施策」は不要ではないか。行政が行う以上、どちらも市民向け施策である。それぞれ（市民活動支援機能の強化）と（協働型の行政運営に適した市役所の組織体制づくり）のみでよい。 ⑥P14 以降字下げ等体裁の修正を。 ⑦P17 (2)「手引き」とは何か。改定推進プラン完成版に収録されるのか。 ⑧P17 下から7行目「補助事業の終了後も、」および「必用な」カット。 ⑨P17 下から2行目について、地域住民や区民が一つにまとまって行うことも大切だが、今後の将来展望を考えると、広域的にネットワークを構築して活動していくことは大切だと思う。 ⑩P18 上から6行目「市や市民活動団体」→「市民活動団体や市」に。 ⑪P18 (3)「継ぎ目」→「切れ目」に。		した「市民協働型まちづくり事業の手引き」と「既存事業の「協働化」取り組みの手引き」。改定推進プラン完成版に収録する。
P20 9.計画のスケジュール	年次計画表の中の30～31年度および32～33年度の2年サイクルで「新・市民協働型まちづくり事業の実施」「市民協働型まちづくり事業の評価と選考・実施方法の見直し」とあり、現在のプランにも載っているが、現状行っていない。過去をさかのぼると、初代プランからこの記述があり、当初は3年サイクルで考えていたようだ。策定時の担当に聞くと、まだ制度のスタート時期だ	「市民活動支援機能の強化及びネットワーク支援」の図と同様に、縦に長い矢印を付け、単年度ごとに評価と見直しを付けるのがよい。	

	ったので、3年程度で制度や運営の振り返りを想定していたとの事。前回の改定（H23）で、3年目が委員が新任となる年に重なった場合に評価ができないので、委員の2年の任期に合わせて変わった。現在は、事業も制度も単年度内で振り返りができるシステムなので、このような記述は不要と考える。		
P21～ 10.参考資料	①P21 棒グラフが見にくい。見た瞬間に読む気がなくなってしまう。色の度合いを変えるなどして工夫してほしい。 ②P28 (3) 沿革「平成21年」→「平成20年」に。(11/25)		
その他	・改定の都度わかりやすい内容になっていてよいと思う。		

→12月中に本日の内容を踏まえた案を再送付し、意見がある場合は年内に事務局まで報告をもらう。

(2) 今年度の市民協働事業等進捗について（報告）（資料1、2）

①11月8日相模原市視察研修報告（資料1）寺島報告

②開催済み事業・予定について（資料2）鈴木報告

4 その他

（事務局より）

* 3月21日（火）市役所水道庁舎2階会議室 午後予定（協議会と報告会）※報告会は公開。静岡県庁職員見学予定

5 閉 会（山崎委員）15:45